

## 令和5年度

### 第2回草津市子ども・子育て会議 会議録

■日時：令和6年1月12日（金）午後1時30分～午後3時45分

■場所：キラリエ草津 402会議室

■出席委員

石井委員、薄田委員、宇野委員、奥野委員、神部委員、佐々木委員、杉江委員、土田委員、中島委員、藤田委員、八木委員、保田委員、柳澤委員、山崎委員

■欠席委員

浅野委員、神岡委員、左寄委員、柴田委員、丸山委員、横江委員

■事務局

子ども未来部：黒川部長、荒川副部長、松尾副部長

子ども・若者政策課：中瀬課長、島川課長補佐

関係課：子ども家庭・若者課、幼児課、幼児施設課、子育て相談センター、発達支援センター、家庭児童相談室、児童生徒支援課、生涯学習課、人とくらしのサポートセンター

■傍聴者

0人

#### 1. 開会

---

<委員20名中14名の出席、事務局より開会を宣言>

#### 2. 挨拶

---

<子ども未来部黒川部長より挨拶>

## 【議事】

---

### (1) こども大綱の概要について

○事務局<資料1について説明>

○委員長

ただ今の事務局からの説明の内容について何か御質問、御意見がございましたらよろしくお願いたします。

一つ一つ、大きかったのが全てまとめられて一本化されたということで、総合的に議論、検討していくというのは大変ですが、委員の方々よろしいですか。こういう形で今後、子どもの政策が進められていくと。これをベースにしながら草津市のこれからの子育て支援と一緒に考えていきたいと思います。こども大綱はこういうものだとすることを御理解していただいた上で、2番の議事、「(仮称)草津市こども計画策定について」に入りたいと思います。

## 【議事】

---

### (2) (仮称)草津市こども計画策定について

○事務局<資料2-1、2-2について説明>

○委員長

ただ今の事務局からの説明の内容について御質問、御意見ございましたらよろしくお願いたします。かなりの数のニーズ調査、アンケート調査がこれから必要になり、大変ですが、よろしくお願いたします。

○A委員

こども大綱や(仮称)草津市こども計画ということでしたが、子どもというのは大体何歳ぐらいでしょうか。

○事務局

子どもというのは基本的に法律では18歳まで、草津市では、子どもは18歳まで、若者を18歳から39歳までとしております。

○事務局

こども基本法ではこどもの定義が18歳ではなく、成育過程にある者をこどもとして捉えると定義されており、何歳までかというのははっきりした年の区切りはなく、若者ならこれくらいと定義されています。

○A委員

(仮称)草津市こども計画の子どももその範囲と考えていいということでしょうか。

○事務局

(仮称)草津市こども計画は先ほどの説明を目標に持ちながら、施策によってなかなか年

齡を区切れないところがありますので、臨機応変に対応できるような形で考えていきたいと思っております。

○委員長

何か他にございますか。ないようでしたら、アンケートがかなりの数がありますので、それを見ていただきながら気付いたことを、その都度お話いただけたらと思います。

それでは、(仮称)草津市こども計画に関するアンケート調査について、事務局お願いします。

## 【議事】

---

### (2) (仮称)草津市こども計画策定について

#### ・(仮称)草津市こども計画に関するアンケート調査について

○事務局<資料3、3-1、3-2について説明>

○委員長

一通りアンケートの中身を御覧いただいている前提でお聞きします。資料3-1、3-2に関して御質問、あるいは御自分がこれを答えるという立場に立ったときの意見などをお願いします。

○B委員

3点ほどあります。誤字脱字はまた後ほど修正されると思いますが、指摘してよろしいでしょうか。

○委員長

一応指摘をしておいてください。

○B委員

4ページ上段、5つ目の「自分の意見に自信がないから」の「じしん」の漢字が違います。(※市ホームページ資料においては事務局にて修正済み)2つ目、集計の方法について質問ですが、中学校、高校生は学校で配布されるということでしょうか。

○事務局

学校への依頼とWebでの実施を検討中です。

調査の方法につきましては現在、教育委員会と調整中です。WebフォームでQRコードを読み込んだら回答ができるものをメインに考えています。今、市内の小中学校でタブレットが配布されていますし、高校生もいろんな手法で回答できると思います。紙ベースでは、選択肢によって次の設問に飛ぶもの、必須回答や複数選択可のものなどでエラーになるなど、Webの方がエラーメッセージが出るので正確に回答が受けられると思いますので、その点を踏まえてWebを優先しながら、学校や教育委員会と調整して進めていきます。

○B委員

自由記載の欄が紙記載ですと集計が大変かと思いましたが、今おっしゃる内容でエラー

もありますので、Webの方がよいのではと思います。

3つ目、質問の内容で必ず回答のなかに「その他」があります。「どちらも当てはまらない」や、全部言えない場合などがあると思いますが、例えば中学2年生に聞く場合には「わからない」という回答が多くなると思います。

その場合、わからない人に対してどのように知らせていくのかというのは大事な点かと思っておりますので、選択肢を分けた方がよりよい集計結果が得られるのではないかと思います。以上です。

○委員長

「その他」の中で「どちらともいえない」、「わからない」を分けた方がいいということですね。

○B委員

集計の手間がないということなら、細分化した方がいいのではないかと思います。

○事務局

説明の内容によって意見をいただいたような工夫をしたいと思っております。

○C委員

説明していただきたい点が1点あります。資料3の調査対象者について、こども家庭庁では小学校4年生から29歳、草津市では中学校から上とあります。

アンケートは若干違いますが、こども家庭庁の調査対象の年代と違って、草津市では小学生は抜いて中学校以上でアンケートをとるのは何か理由があるのでしょうか。

○事務局

こども家庭庁は小学校4年生から29歳まで、誰でも答えられるWebでオープンに拾っている状態です。草津市では意見を聞くアンケートの設問を考えたときに、例えば草津市の情報をどうやって得るかなどの意見がほしい。どれぐらいの年代であれば、設問を適正に、ある程度理解して回答できるかということを考えてときに、意見を広く拾うことは大事ですが、回答の正確性、どれぐらいの対象であれば理解できるかという点で、中学校2年生が適当ではないかと考えました。また、高校生は中学校から年代が上がって、大学に進まれる方もいれば社会に出る方もいる。18歳が成人になり、その少し手前でこれから社会とのつながりを持っていく中で、どういった方法がいいのか、ということ踏まえて中学校、高校としました。子どもについては先ほど説明したとおりで、現計画の中で若者を39歳までとしていますので、そこは国よりも広く、39歳までとしています。

○D委員

2点質問があります。高校生への質問で、市内の高校に聞くということは草津市在住の子どもだけに聞くのではなくりますが、そこは想定範囲でしょうか。

○事務局

想定しています。草津市に通う高校生の年代、市内外問わず、その年代にどういった方法なら意見が出やすいかという視点で聞いています。逆に市内の方と市外から来る方とでク

ロス集計ができるので、市内の方の情報のキャッチの仕方と、市外から草津市に通う方の情報のキャッチの仕方、例えば広報とかは市内の方が見られる機会が多いと思いますし、そういったクロスもできますので、あくまでも年代で絞った形にしています。

○D委員

市外の方が発生するのは高校生だけになりますよね。18歳からは市内の若者ということになるのであれば、高校生だけはなぜ市外の方を含むのか疑問です。

○事務局

18歳から39歳は無作為抽出で市内の方に送ります。高校生は確かに市外から来る方もいますが、高校1年生世代ということでスポットを当てて、その世代はどういった意見が出やすいか、例えば大津から来ていても、守山から来ていてもその年代のコミュニティーの中で捉える手法は似通っていると考えます。市外の学校にまでアプローチをすることの困難性もあり、範囲は市内、ターゲットはその年代で絞っています。

○D委員

草津市内に高校は5校ありますが、そこに依頼をかけるのでしょうか。

○事務局

その予定です。

○D委員

分かりました。

もう1点、中学2年生と高校生にアンケートをするのに、ふりがなが要るのかと疑問に思いました。これぐらい読めるだろうという漢字にも全部ふりがながあって、大人の私にははっきり言って見にくいです。

○事務局

ふりがなに関しましては、調査票案の作成の過程でふりがなを付けた方がいいという意見がありました。例えば、外国人の学生の方というのはまだ漢字がおぼつかないという方もいて、どこにふりがなを振って、どのふりがなを抜くかという判断が難しく、原案では全てに振っています。ただ、今の御意見のとおり見にくさという点で、アンケートの返答率が下がるのは避けたいので、そこは工夫をしたいと思います。基本的には皆さんが等しく答えられるよう考えたいと思います。

○E委員

先ほどの方とは反対に、中学校、高校生にはルビ打ちしていますが、若者でも発達障害等でルビ打ちがないと判断できないという方への配慮については、どうするのかと考えながらこの内容を見ていました。

また、このままの形で画面に出てくるのであれば、学生さん向けは行間があって読みやすいですが、若者向けは見にくく感じました。今は仮の形だからかとは思いますが回答をお願いいたします。

#### ○事務局

まず2つ目の質問からお答えすると、今これは資料として紙で出力していますが、Webの画面は例えば1問1ページ設定とするなど、答えたら次のページに飛ぶという形です。アンケートの見やすさとして、行間や文字の大きさ、色あい、注意書きのところは線を入れて強調するなど、デザインは可能な範囲で工夫します。

ルビについては、方向として全部打つのか、あるいは別の方法、読めない方に選択肢があるような形になるのか、そこはシステム的な話になるので、後日整理をしたいと思います。

#### ○F委員

中高生のアンケートの内容に関して、選択肢がすごく多いので途中で読むのをやめそうだという不安を感じました。Webでの回答は子どもたちは慣れているので、質問する相手がある場になかったら適当に入れたり、流し読みしたりしてしまうのではないのでしょうか。できれば選択肢が多くなり過ぎないようにしてほしいです。

例えば中高生に対する案の8ページ目、Q16「草津市の取組の中で特に充実してほしいものとして当てはまるものを選んでください」という項目で、まず選択肢の中身が、読みこむのに時間がかかり、説明を補足しないと言葉の意味もよく分からないのではないかと思います。

それならQ19のように、項目に対して「とても充実してほしい」、「現状でいい」、「そう思わない」という選択肢に加えて、「具体的な内容がわからない」という選択肢も入れておけば、中高生でこういった施策があることを知らないということも見えてくると思います。

また、設問を一個ずつ区切った方が答えやすく、聞かれたことに対して意見が出しやすいと思います。

複数選択になっている設問に関しては全部丸をしてしまう人もいるのではと感じます。

施策や取組に対して、その内容の把握と、その取組が必要かどうかという選び方は非常に難しく、最終的に「わからない」に丸をしまいそうだと思います。その取組が認知されているかどうかのデータもとれそうなので、それぞれの取組に対して選択肢を設けた方がいいのではないかと。ただ、設問内容によっては、選択肢からピックアップするという形式はいいと思います。

もう1点、先ほど市外の高校生、例えば守山から来ている場合には、草津市の施策を知らないから答えにくいというのがあると思います。設問では国や県と書かれているので、社会全体のことと捉えて意見は言いやすいか、と問われていると思いますが、僕は守山に住んでいるから守山のことを答えていいんですかという質問が出そうです。高校生全体が社会や子育てに関してどんな意見を持っているかを拾うだけならいいですが、草津市の施策に関してと区切るのであれば、市内の方だけ答えるようにしておかないと、質問がわからない、答えられないとなってしまいます。

#### ○事務局

御指摘のとおり、選択肢が多い部分があります。選択肢の類似、重複がないか、あまり回

答数が想定できないものの削除など、精査します。

市外の方の回答について、草津市在住の方で草津市のことを知っているかということと、社会全体に望む制度として何が望まれるかというのは似ているようで違うので、その区分けは設問の方で工夫をしていきます。

#### ○G委員

このアンケートは無記名ですが、Q18の「悩みを相談したり、助けを求めたりできる相手が身近にいますか」という項目で、もしここで「いない」とか、「SNSでつながりがある人」ということだけの回答をフィードバックできる方法があれば、親としては知りたいです。もし何かいい方法があれば、ここだけはフィードバックしてほしいです。

#### ○事務局

このアンケートはあくまで匿名性を重視して自由に答えてもらうため、その子どもを個別に特定すること想定していません。

ただ、このアンケートの目的は子どもがどういった状況にあるかを知ることです。例えば相談する相手がいないとか、相談相手がSNSでつながりのある人と答えた方に、相談窓口などを周知していく施策を打つため、その手前の調査にもなるものなので、個人に対して個別に困っていることを聞くのではなく、全体の中で認知度が低く周知が足りない施策があれば、それに対するアプローチのために使うことを検討します。

#### ○H委員

先ほどから話に上がっている内容と重複していますが、18歳から39歳の方対象の調査は、設問が35問というところで、僕もやり始めましたが、まだ少ししか進んでいないというところで、もうやめておこうかと思いました。やはり設問はもう少し精査していただきたいです。

案として、Q12～14、年代、性別、関係性ということで分けてありますが、それを1つにまとめて、選択肢から3つ選んでくださいといった、複数回答の形式にするとよいのではないかと思います。

あと、18歳から39歳の方のQ9、「無職の方や仕事を探している方」と「探していない方」という選択肢は必要でしょうか。

#### ○事務局

1つ目の質問については、設問自体の選択肢を含めて整理をもう一度したいと思います。

無職で仕事を探している方と仕事を探していない方という選択肢は、生活実態調査という面で、意欲があって仕事を探しているけれども見付かっていない方と、仕事を探していない方の今後の展望について聞く設問で、ここは細分化をしたいと思っています。他の自治体でも同様の調査を行っています。仕事を探している方と探していない方では、アプローチ方法などが変わってきますので選択肢としては必要と思っています。

#### ○I委員

中高生向けのアンケートQ6、「様々な制度や政策に草津市は取り組んでいます。草津市

の制度や施策についてどのように情報を得ていますか。」の項目で、LINE、X (Twitter)、Facebook、Instagram と選択肢があります。この情報を得ているかどうかというのは草津市の公式の窓口から情報を得ているのか、草津市の情報を発信している一般の人をフォローしているのかを聞きたいのか、どちらでしょう。草津市の LINE があるのは知っていますが、TikTok も草津市はされているのでしょうか。

#### ○事務局

今、草津市はXはやっていますが、TikTok は公式ではないです。

Instagram は各施設で独自でつくっているものがあります。例えば草津市図書館も Instagram を開設しています。草津市全体の情報というよりも施設に特化したところで情報発信を努めているところもありますので、選択肢に記載をしています。

TikTok はないので、委員がおっしゃったように混在している部分があり、捉え方によっては公式だけしか挙げてはいけないと思われる方と、一般の方の発信も記載していいというふうに意図が変わってくる可能性があるので、その辺りは整理いたします。

#### ○J 委員

先ほどの委員の発言、私は重要なことだと思います。子どもにとって相談できる先がないというのは、本人にとって回答するのにストレスがかかることを聞いていると思います。聞いて意識化させた以上は聞いた責任がある。例えば子どものアンケートに、カウンセラーやソーシャルワーカーなどの相談できる一覧を載せておくとか、各自治体の相談先を最後に挙げるという工夫も必要だと感じました。

もう1点、子どもアンケートのQ20 で、コロナウイルス感染症の影響について中高生に対して聞いています。私たちの想像以上に中高生は今現在アフターコロナの時代を生きているので、これを聞けば、何か影響があったと答えたとしたら、何らかの先の施策が考えられるのかということを知りたいです。

#### ○事務局

コロナウイルスに関しては他の自治体で使われているものを参考にしたというのがあります。直近で1つの大きな社会的な転換点のきっかけになった事象をどう捉えるかという意味で、設問案として入れています。

1点目についてですが、このアンケートのアフターフォローとして、様々な相談窓口などがあるというのは何かしらの形で案内、整理、検討をします。

#### ○委員長

1点目、中学校と高校と分かれています、中2と高1は2から3歳しか変わらないですよ。中1、中3と18歳なら大体3つぐらいの間隔でそれぞれの世代の傾向が多少見えると思うが、14歳と15歳、1歳差ぐらいだと本当に一部の狭い若者の意見しか吸い上げられないのではないのでしょうか。中学、高校とアンケートを取るのであれば、小学校の高学年ぐらいのイメージも含めて聞くことができる中1、高校生、高校卒業した18歳以降という形の方がいろいろと活用できるのではないのでしょうか。

2点目、高校の市内・市外に関して、Q2の住んでいる所でクロス集計するという手はあると思います。草津の施策に関して、市外から通う高校生が知らないから、草津の高校生はほとんど知らないという結果が出るのもおかしな話になります。中学生や若者への設問が草津市内の人間を対象としているのであれば、高校生も、半分以上が市外から来ていたら高校生の回答を捨てるのはもったいないが、1割ぐらいの話なら、クロス集計ではじいてしまう方法もあります。

3点目、資料がスマホなどでみられる形になっていないので、これを見て本当に答えやすいのか、答えられるのかというのは判断が付きません。その中で、問題だと思えるのが、それぞれの設問について幾つ答えるのかということが明確でない点です。一個だけ選択するのか、全て選択するのか、3つまで選択するのか、いろんなパターンが入っていて、例えば中高生だと一個答えるものには何も指示がありません。回答方法の指示を太字にする、アンダーラインを引くなどしないと、分析するときに非常にあいまいなことになります。1つだったら「○をひとつ」と若者のアンケートの方はちゃんと書いてあります。ただ、指示の仕方もバラバラなので統一をしてください。細かい指示がないと、答える側というのは勝手に判断をしてしまうので、そういった細かい部分を修正した上で分析をお願いします。

4点目、この集計結果の活用というのは年代だけでクロス集計をするのですか。性別など、分析に使わないのだったら聞く意味がありますか。性別・年代で分析をしたいということであれば聞くということは必要ですが、年代だけで分析するのなら性別を入れる必要はないです。そういう無駄な質問が入っているから全体の分量が多くなってしまいます。ただ、年代の中でも男女差というのは当然あります。アンケート項目は、聞いたものをどう使うのかということ的前提につくらないと、とりあえず聞いておこうというのは回答する人に対しては失礼です。今後これをどう分析をしていくのかということを含めて、もう一回精査をしていただきたいと思います。以上です。

## 【議事】

---

### (2) (仮称) 草津市子ども計画策定について

#### ・(仮称) 草津市子ども計画に関するアンケート調査について

○事務局<資料4、4-1、4-2について説明>

○委員長

資料4に関わって何か御質問、御意見ございましたらよろしくお願ひいたします。

○C委員

各設問を読んで、これは1つだけ選ぶとか、3つまでは選べるとか、自由に全部当てはまるものとかいうのは、黒丸と黒の四角と白の四角で分けていますが、読むときにマークは読まないですし、このマークを分けるだけでも大変だと思います。質問のたびに、先程おっしゃったようにこれは1つとか、3つまで選べるとかいう指示があったら黒丸でも、白枠でも

答える人は関係ないから、この辺の手間も省けるのではないかと思います。

○事務局

今は紙ベースでお示ししているのですが、こういう表記になっています。実際は1個だけ選んでくださいという設問に対して、2つ選べないようにどちらかに点が入るようにするとか、チェックボックスを複数選ぶときは何個か選べるということを明確な指示をした上で答えられる Web 上での設定になりますので、画面上はもう少しすっきりした形になると思います。

○I 委員

スポーツ少年団の役員をして、小学校3年生から6年生までの子どもたちを見ています。子どもたちの様子を見てみると、例えば「あなたにとって居心地のいい場所であるのはどこですか」の問いに、このアンケートで答えられる感じがしない。5～6年生だったら自分の感じていることをイメージで選択できるかと思いますが、3～4年生は難しいと思います。それだったら自由記載にした方が意見としては拾いやすいのではないのでしょうか。

○事務局

おっしゃるとおり、3～4年生と5～6年生というのは差が出てしまうと思います。この設問をお示ししたのは、聞きたい方向性を示したというところなので、聞き方については現場の先生も含めて相談しながら考えていきたいと思っています。

○B 委員

先ほどの委員長と他の委員さんの御質問や設問の答え方に関して、事務局は資料の説明のなかで、おそらくラジオボタンとチェックボックスの説明をされたと思いますが、Web の回答に慣れていない方は御存知ないので、システム的なエラーではじかれるというのは、ないように設定されているということを最初に説明なさった方がよかったですと思いました。

また、3年生、4年生とか5年生、6年生が回答するとき、全体として文字数が何文字あって、時間内に回答できる内容になっているのかなども見ていただきたいです。文字数や時間がわからないと答えないという人は出てくると思いますし、大人の方であっても調査結果の回答率が30%で結構厳しいのではないのでしょうか。先ほど見直すとおっしゃっていましたので、検討いただきたいです。

○K 委員

居場所についてのアンケートに関して、3年生から6年生までとのことですが、小学校の子どもの実態がよく分かっていないのではないですか。「学校が終わってから18時まで一番多く過ごしている場所はどこですか」で、習い事と塾が一つの選択肢になっています。地域差はありますが、例えば私のいる学区の隣の学区では4割が塾に行っています。さらにその4割が中学受験をするというような学校です。今、市内の小学5・6年の学力テストの上位3校は全部駅の近くといわれています。そういう子どもたちは18時どころか、20時、21時まで塾に行っています。居場所ということだけでも、中学受験する子どもたちは4年生ぐらいから学習塾に行き、そして長時間いるということなども頭の片隅に置いていただくと、

学校によって回答の差が違ってくると思います。

○J委員

そもそもの居場所というのが、自宅以外というところが前提にあると認識していました。自分の家が過ごしている場所という意味では分かりますが、居場所というときに自分の家しか居場所がないという意味で入れているのか、そもそも居場所のところで家を入れるのが適当なのかお伺いしたいです。

○事務局

居場所というのは本来自分らしくいられる場所という前提になっています。例えば初めの設問に今いる場所が自宅と回答して、次に「どういう居場所があればいいですか」という設問につながっていくようにしています。家において、それで満足であれば、それがその子の居場所とっていいと思いますが、他に行きたい場所があるとか、もっと違うところに行きたい場所があるとか、そういうことの中で自分の家というのも十分居場所の一つになるという認識です。

○J委員

そもそも自宅以外の居場所というところに強調されているような気がしていたので伺いました。

○F委員

居場所のアンケートについて、場所やそこで過ごすことについて居心地がいいのかという設問はありますが、家で過ごしているときに家族でいるのか、一人かどうかは聞かないのでしょうか。一人でいるとか、家にいるけども一人きりだというと、一人きりだところというところが不安なのかというのが拾えるかと思いました。

学校が終わってから18時ごろまで過ごしている場所で一人なのか、誰かといるのかということが気になって知りたいです。データとして必要ない情報であれば構わないですが、一意見として聞いてもらえたらと思いました。

○事務局

御質問の1ページ、2ページをご覧くださいまして、クロス集計の例も含めて説明いたします。Q3でどこか選び、Q4でそこは居心地いいですかと聞きます。その後の質問で「はい」と「いいえ」で分かれていますが、その中で「はい」なら一人で過ごせる場であるとか、みんなに会えるとか、「いいえ」でも、逆に「一人で過ごせないから」とか「みんながいない」などを聞いています。そこでクロスをすれば、おっしゃった回答の特徴は大体つかめると思っています。今回はクロスの説明が十分ではないですが、そういうイメージで集計を拾っていくよう考えています。

○A委員

先ほどの資料3のアンケートのところも含めて、市としては、課題があつて、こういう施策を打つていこうというための調査ということだと思います。より効果的な施策を打つために、実施する上でいろんな仮説や予想をしながら質問を精査していくことが必要だと思います。

うので、現状どの辺りに、課題があると捉えているのかということを知りたいです。

○事務局

低学年ですと児童育成クラブなどに行かれている方は多いと思いますが、高学年で児童育成クラブをやめて家で過ごすことがある中で、対象を小学生とその保護者にすることで、子ども自身が思う居場所、居場所という言葉が子どもにすっと入るかどうかかわかりませんが、子どもが今満足しているかどうかと、親がこういう居場所についてほしいというところのギャップや乖離がないかが見られると思います。その中で、草津市で居場所に対してどのような施策を打つべきなのか判断することが必要になると思います。実際、遊ぶ場所がないとか、公園でボール遊びができないなども断片的に聞いています。放課後の実態も見えてくると思いますので、どういった方向の施策を打っていくのか、今あるものをもっと活用していくのか、新たに何かが必要なのかというところを見たいという、点から今回のアンケートをとりたいと思っています。

○委員長

よろしいでしょうか。あとは草津市こども計画に関するニーズ調査、団体アンケートについての御説明をお願いします。

## **【議事】**

---

### (2) (仮称) 草津市こども計画策定について

#### ・(仮称) 草津市こども計画に関するニーズ調査、団体アンケートについて

○事務局<資料5、5-1、5-2、6-1、6-2、6-3資料説明>

○委員長

今の説明について御質問、御意見がありましたらお願いします。

○H委員

誤字も言った方がいいということだったので、資料5-1の最後のページの付け加えられている赤字で書いてある「就学前教育」の「ぜん」の漢字が違うのでお伝えさせていただきます。(※市ホームページ資料においては事務局にて修正済み)

もう1つ、調査票の内容はあまり変更できないというのはお聞きしましたが、やはり「こども誰でも通園制度」という部分で、今のところは0歳から2歳児の未就園児というところを聞いています。ただ、説明がないと誰でも使えると勘違いしてしまうのではないのでしょうか。また月10時間という制限があったり、子育て世帯の孤立を防ぐという目的の制度だったり、あとは未就園児が子ども同士で過ごす経験、子どもの発達という部分に目的があるので、最後に制度の目的と説明があったほうが良いと思いました。以上です。

○事務局

ありがとうございます。「こども誰でも通園」につきましては、設問の下に注釈を付けて制度の説明をさせていただこうと思っております。

○C委員

資料5の調査内容の就学前児童で書いているところには、家族の状況、保護者の就業状況など「保護者」という表現が付きます。5ページには、「この調査に回答いただく人は誰ですか」で「母親」、「父親」、「祖母」、「祖父」、「その他」と選択肢があります。6ページの今回から変更した設問というところに、「父親、母親の就労状況についてお答えください」となっていますが、父親、母親がおらず、祖父、祖母に育てられた人もいると思ったので、そういった方が答えられるところがあるのでしょうか。国の設定している設問なので変えられないのかもしれませんが、父親、母親がいらっしゃらない人は答えられないと思いました。

○事務局

この設問は国の設問項目になっています。ただ、そういったケースについての取り扱いをどのようにすべきか確認させていただきます。

○J委員

7ページですが、前回の調査では利用実績を聞く設問でしたが、今回は利用意向を聞く設問なので、ファミリー・サポートなどの説明は入れた方がいいと思いました。

○事務局

言葉の語彙の説明についてはできるだけ加えていこうと思います。

○委員長

他にはいかがですか。事務局には、今出ていた意見の御検討をお願いいたします。では、最後の報告事項の速報値について御説明をお願いします。

### 3. 報告

#### (1) 子育てしやすいまちづくりアンケートの結果について（速報値）

○事務局<資料7資料説明>

○委員長

ただ今の説明について御質問、御意見あればお願いします。

1点お聞きしますが、年度内で85~6%を超えてあまり変化がないのであれば、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の2つを合わせるのではなくて、「そう思う」と回答した人の率を出していただくことはできますか。「そう思う」と回答した人を増やすという視点で見えていかないと、「そう思う」と回答した割合が下がっているなら、違う見方もしないといけないですね。

○事務局

実数でいいますと、令和4年度の「そう思う」と回答した方の総計が533人、母数が1,968人ですので27%。今回は474人に対して母数2,259人ですので20%です。

○委員長

というと、下がっているということですね。

○事務局

ただ、「どちらかといえばそう思う」に関しては、令和4年度が1,192人、母数1,968人で60%です。今回が「どちらかといえばそう思う」が1,464人、母数2,259人ですので約65%ですので、総計で見ると大きくは変わっていないですけど、「そう思う」というのが若干下がっているというような形です。

○委員長

厳しい見方をしたら「そう思う」という人の率が下がって、その分「どちらかといえばそう思う」という回答が増えたという結果ですよ。その結果も含めて今後どうするのかというのは見ていく必要があるかと思います。

○F委員

私も中学生の子どもがいますので、このアンケートに回答させてもらった立場です。この速報値を見て、こんなに回収率が低いのだと自分自身は対象者でありながら強く感じました。ただ、回収率18.2%というのが標準的な数字なのか、多いのか少ないのかというのはよく分かっていません。今回デジタル化してQRコードを読み込んで回答する形なので、集計の手間が省けるのだったらいいなと思って回答しましたが、令和4年度の実績の回収率は紙ベースのものですか。商品券の回は今年しかなかったもので、子ども手当の申請など、そういうタイミングでアンケートの依頼があるので、令和4年度の紙ベースのときの回収率はどのようなのでしょうか。何かのきっかけでこの18%をせめて30%とか、もう少し上げる形があればいいなと思いました。

○事務局

アンケートの回収率については苦慮しているところです。今回Webを導入して、できる限り手を尽くして草津市のLINEなどのSNSサービスを使って、リマインドを含めてプッシュをしている状況です。回収率について何が原因かを明確にするのは難しいですが、アンケートに答える暇がないという方もおられると思いますし、これに答えたからどのように自分の環境が変わるのかということもあると思います。ただ、回収率は低いですが、実数として2,000件、先ほどの国の調査でも全国のサンプルとして2,000件ですので、この実情をどう捉えるかであると考えます。

○I委員

私もこの調査の配布対象に入りますが、例えば、保健センターの健診のときにお声を掛けるといったやり方はとてもいいと思います。ただ、声を掛けられる側からしたら、そのアンケートが具体的に自分たちの生活にどうやって生かされているのかというのが自分事として下りてこないのではないかと思います。保健師さんがいる育児健診で、何か育児で困っていることはないですかと聞かれたときに、困りごとを答えたらこのアンケートに意見が反映されるという形でもいいと思います。市役所がこういうアンケートを実施しているから答えてくださいと保健師さん側から言ってもらえると、より自分事として自分たちに還元があるんだなと感じられると思います。

○事務局

ありがとうございます。やはり対話式の中で関心を持っていただくということは大事かと思っております。実はこのアンケートに関しましては前年度も回収率が低かったということで、この会議の場で委員の方からさまざまな御意見をいただいて、アンケートを電子化した上で、直接のお声掛けを進めていこうということで今年度取り組んでできました。ただ、その結果下がっているという状況になっておりますので、職員の稼働の問題もありますが、もう少し子育ての育児施設等に出向いてお話ししながら、という工夫もしていきたいと思っています。健診の際、もう少し踏み込んで保健師の方からお願いするというのももちろんありますが、受診されている方が健診の時間が長いと感じておられる方もいらっしゃるのので、臨機応変に寄り添いながら進めていきたいと思っております。

○B委員

回収率の話がありましたが、統計学的には十分な数だと思います。回収率よりも、委員長がおっしゃった「そう思う」が5%ぐらい下がっていることを注視していただく方がいいと思います。

○委員長

では、もしどうしてもという意見があればお願いします。

○A委員

学校現場にいると、子どもを対象にしたアンケートを取るとき、ボリュームがあるものは最初でしんどくなってしまうというのはよくあります。本当に必要な設問に絞っていただきたいです。その際に、現状や課題の見立て、見込みから、そのための施策はこうではないかと十分に想定をしながら、精査した調査であることが必要だと思います。

そのときに、資料6で示されたように、現場でいろんな支援をしていただいている団体さんの方々の声を十分聞いていただきたいです。それぞれ日々活動されている声をまず聞いていただいて、その中で課題を精査していくのがよいかと思います。それによって施策が効果的になっていく、逆に課題の把握が十分でないためにニーズ調査ですら載ってこないということが起こってくるかもしれません。必要なところに必要な支援が届かない計画になるともったいないと思うので、ぜひ現場で支援していただいている方々の声を十分聞いていただいて、計画を進めていただければありがたいと思います。よろしくお願いします。

○委員長

ありがとうございました。では、時間が少し過ぎてしまいましたけども、この辺りで今日の進行をお返しさせていただきたいと思っております。特に今日はアンケートの説明に関して、アンケートというのは調査票をつくるだけで8割とも言われますので、みなさんからいただいた御意見を取り入れて、よりよいアンケートを作っていただければと思います。

○事務局

ありがとうございました。今回の会議で委員の皆さまからいただいた御意見を踏まえまして、アンケートの作成を進めさせていただきます。

#### 4. 閉会

---

##### ○事務局

次回の会議は、3月中旬から下旬に予定しております。教育・保育施設の利用定員や地域型保育事業の認可等についての審議を予定しておりますので、日時が決まりましたら、また改めて御案内いたします。よろしくお願いいたします。

本日は、御多用のところありがとうございました。